

神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総 括

平成27年度の会員数は男性78名、女性84名、計162名である。新入会員はゼロのため、前年度比マイナス36名となった。会員の年齢は42歳から89歳、平均年齢は男性71.7歳、女性71.3歳でそれぞれの中央値は73.5歳、72.5歳であった(表1、2)。

会員の検診項目は消化器がん(消)が胃X線・腹部超音波・便潜血(1回/年)、肺がん(肺)は胸部X線・喀痰細胞診(2回/年)と胸部CT(1回/年)、子宮がん(子)は子宮頸部細胞診、コルポとHPVと50歳以上は子宮体部検査(1回/年)、乳がん(乳)はマンモグラフィまたは乳腺超音波検査(1回/年)を原則として行い、その組み合わせは6パターンある。会員の選択したパターンは表1のごとくで、男性は消化器と肺の組み合わせが71名(91%)と最も多く、女性は消化器・子宮・乳の組み合わせが74名(88%)と最も多かった。女性で肺を選択した会員は7名(8%)と少数であった。

胃XP検査は88名に施行し、要精検として内視鏡検査となったのは5名であった。確定診断では、胃潰瘍が2名で、がんはなかった(表3)。腹部超音波検査は124名に実施し、検査結果は表4に示す。便潜血検査は123名中6名(4.9%)が陽性で、その内、男性の1名に大腸がんを認めた(表5)。肺がん検診結果は喀痰細胞診を含めて表6、7、8の如くで肺がんは認めなかった。乳がん、子宮がんには認めなかった(表9、10)。

肝機能や血中脂質等の特定健診項目に準じた付加検診結果では、血糖や血中脂質検査が高値な会員を多数認め(表11)、BMIが25以上の会員が30%以上に認められた。今後は会員に対する生活習慣の改善指導によるがんの一次予防も重要である。

消化器がん検診

消化器がん検診としては胃X線検査、腹部超音波検査、便潜血検査を施行している。本年度の消化器検査受診者は155名で男性73名、女性82名、このうち胃X線検査受診者は男性41名、女性47名で、その中から要内視鏡精検指示を受けた者は5名であったが胃がん発見はなかった。(表1、2、3)。超音波検査は124名が受診し男性56名、女性68名で1名が胆嚢腫瘍疑いで精査指示を受けた(表4)。大腸がん検診は123名が受診し要精検者は6名、このうち他医療機関により1名に大腸がんが発見された。2名は精査勧告されたが未受診であった。(表5)。近年高齢者には胃X線検査の代わりに胃内視鏡検査を推奨しており、一次検査に内視鏡を希望する受診者が増加している。また画像検査診断上有効な情報となる為、各種腫瘍マーカー追加を推奨している。

肺がん検診

当協会における屈指の会員制肺がん検診である。1976年以来、年2回の直接胸部撮影と喀痰細胞診から始まり、幾つかの紆余曲折を経ながら40年の間例外を除いては文字通り早期発見を目標とし、また、肺がんに限らず他疾患のアプローチにも会員制の長

所を活かしての検診の歴史であった。

表6ではCT検査との組合せ群から1名の精密検査がみられる。表7は扁平上皮癌発見の切り札ともいえる喀痰細胞診では分類C以上はなし。表8の発見疾患および発見指摘所見では肺がん例なく喀痰所見を除いては疑問所見として最終診断に至っていない。

乳がん検診

27年度の新たな会員はなく、女性の会員84名中受診者は59名で、現在乳がんで行っているのは原則として視触診とのマンモグラフィ(以下MMG)か超音波(エコーグラム以下US)のどちらかの各年併用検診で、MMGはフラットパネルのデジタル機か、必要に応じてトモシンセの併用も可能だが、USも随時可能なので、まだ症例はない。

上記型検診では昨年は2名の発見乳がんがあったが、27年度は発見乳がんは無い。通常の乳がん検診での発見乳がん率は0.3%前後で当検診受診者のほとんどが再診者で高齢者が多いので、発見率は低いのは致し方ない。乳がん検診に限っては効率は良くないのは以前より変わらない。

子宮がん検診

平成27年度のACクラブの女性会員数は84名であり、その中で子宮頸がん検診受診者は44名(52.4%)、子宮体がん検診受診者は36名(42.9%)であった。子宮体がん検診は、すべて子宮頸がん検診との併用で受診されることから、ACクラブの女性会員は一般の施設検診者と異なり、高率に子宮体がん検診を希望していることが推察される。年齢的に、ACクラブの女性会員のほうが、一般の施設検診者より高齢の方が多い(60歳代28.6%、70歳代44.0%、80歳代19.0%)こともその理由の一つと思われる。

平成27年度の検診者の中で、子宮頸がん検診、体がん検診ともに要精検者は一人も見られなかった。

平成22年度より、希望で子宮頸がんに対するHPVテスト(ヒトパピローマウイルステスト; Hybrid capture II法)が受けられるようになった。実際にACクラブでは平成27年度は子宮頸がん検診者全員にHPVテストが施行され、全員陰性であった。陽性が出た場合には、二次検診として精密検査(コルポスコピー、組織診断)が施行されている。

平成27年度に新入会された人は0名であり、最近増えていない。増加に向けてのさらなる努力が必要と思われる。

ACクラブの女性受診者の中で、子宮がん検診以外の検査(付加検査)を受けた人は60人になり、その中で検査値の異常(有所見者)の内訳は、肝機能検査8(13.3%)、血中脂質検査36(60.0%)、血糖検査14(23.3%)、貧血3(5.0%)、腎・泌尿器27(45.0%)、心電図15(25.0%)であった。対象が、60歳以上の高齢者が多いため、有所見者の比率が高率となったものと思われる。

関係の集計表は104頁に掲載